

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171300017		
法人名	社会福祉法人清水福祉会		
事業所名	グループホームたんぽぽ		
所在地	小城市小城町821-4番地		
自己評価作成日	平成25年7月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成25年8月19日	外部評価確定日	平成25年9月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>住み慣れた地域の中で入居者と家族と職員が共に支えあい、本人が持つておられる能力を活かしながら和やかに暮らすことができる施設づくり。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>開設され12年、ケアハウスと同一建物内に位置しているホームは、明るく清潔感がある近代的な施設である。広大な敷地の中には、母体である病院や特別養護老人ホーム、老人保健施設の他、多種の在宅サービスを有し、それらの事業所とは常に組織として協力体制がとられている。このことは職員、また入居者や家族にとっても安心できる環境となっている。総合福祉施設は、これからの地域福祉の中核的な施設としても活躍が期待される。ホームの職員は法人内外の研修に積極的に参加し、サービスの質の向上を目指している。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの介護理念として「地域の一員として人と触れ合いながら、私らしく生きるために、優しくと思いやりを持って心と体の健康をサポートします」を掲げ、管理者と職員でその思いを共有し実践につなげている。	地域密着型として入居者の日々を支援するための理念を作り上げ実践につなげている。職員の関わり方も優しく感じられる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	多方面からのボランティアの受け入れ、地域の祭りや催し物への参加、また法人の夏祭りは地域に開放されており、地域住民との交流を行っている。日常的には散歩や買い物の際の挨拶などで地域の方々との交流がある。	法人の夏祭りを地域に開放し、また地域の行事へもホームから参加している。日常的にも散歩や買い物時に挨拶を交わす等交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やボランティア訪問などを通して、認知症の人への理解を深めてもらい、認知症の人を抱えている家族に対しては専門機関への相談等の情報提供を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一回を目標に運営推進会議を行い、ホームの活動や入居者の生活について報告したり、避難訓練に参加して頂いたり、グループホームへの理解を深めてもらい、そこでの意見を活かしてサービスの質の向上に努めている。	運営推進会議では、ホームを理解していただく取り組みの他、食事会への招待や消防避難誘導訓練へも実際に参加してもらい、サービス向上に活かせる意見をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の構成員である地域包括支援センターや市の高齢障害福祉課、社会福祉協議会のボランティア代表を通じ、事業所の実績やサービス等の取り組みを伝え、協力関係を築いている。	ネットワークを通じて、市町村担当者と連携ができており、ホーム訪問の折にも課題を伝え意見をもらっている。グループホーム協議会でも担当者と連携し、研修の機会を設けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が身体拘束をしないケアの理解に努め、身体拘束をしないケアを行っている。	身体拘束廃止マニュアルを作成し、職員は拘束のないケアを実践している。また実際のケアの中で管理者が指導をしている。玄関の鍵をかけず、入居者は自由に行動されている。	
7		平成25年8月19日 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	すべての職員が高齢者虐待防止法の理解に努め、毎日の生活の中で注意を払い、防止に努めている。	平成25年9月18日	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症という疾病に関わる中で、すべての職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度について外部研修などを通して学ぶ機会があり、それらを活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際の契約時において、契約書・重要事項説明書に関する疑問や不安がないよう十分な説明を行い、理解・納得を得ている。又、解約等においても同様であり、改定などに関してはその都度、書面での案内や説明の場を設けて伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃よりコミュニケーションを密にし、意見や要望を表して頂くよう伝え、伺った意見や要望はその都度検討して運営に反映させている。又、苦情(相談)申出窓口及び第三者委員を設け、苦情(相談)があった際にはそれらを運営に反映させる準備を行っている。	面会時に入居者の近況を伝え、家族が話しやすい雰囲気を作っている。これまでも職員の言葉や対応に関する意見、ケア内容に関する意見等があり、前向きに活かし、改善につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体会議をはじめとし、職員の意見や提案は随時、聞いて検討し、運営に反映させている。	職員会議では、各自の意見を言えるように時間を設け、ケアや運営に反映させている。管理者は、日々の業務の中でも職員から要望や提案を受けることが多く、検討しケアに反映させている。現場での気づきをその都度記入できる用紙を準備し、職員が共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況を把握し給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持ち、能力を十分発揮できるような環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実績と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人のケアの実績と力量を把握し、研修等への参加機会を設けて勤めている。又、研修に参加した職員より様々な情報提供を受け、職員の育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	見学・相談を含め同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくり等の活動を通じて情報を取得しサービスの質を向上させていく取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等を伺い、安心して暮らしていただくための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で、家族が困っていることや不安なこと・要望等に耳を傾け、家族との信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で本人と家族がまず必要としている支援を見極め、状況に応じた適切な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の暮らしの中で入居者の出来ることを見出し、生活レクへ等の共同作業への参加を通して、共に暮らす者同士としての関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホームでの生活を支える為に必要な家族の協力については随時、家族に説明しており、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られる馴染みの方や知人等に再来の言葉掛けを行い、これまでの関係が途切れないよう支援を行っている。又、住み慣れた地域の事がいつまでも記憶に留まるよう、日頃の話の中に取り込んでいくよう努めている。	法人内の知り合いの方に面会に来ていただいたり、電話で話してもらおう等馴染みの方との関係を大切に支援している。お寺や墓参りの希望などの個別の外出には家族の協力を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事活動や余暇活動等の共同の場を通して利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もこれまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人及び家族の経過をフォローし、面会や相談支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	サービス開始時より一人ひとりの思いや暮らし方の希望・意向の把握に努め、意思表示が困難な方については、日々の関わりの中での何気ない言葉や表情からその方の気持ちを理解するよう努力している。	日常の会話で、好きなこと、したいことを聞いたり、個別のケースに気づきを記入し、全職員が目を通し、共有して支援している。必要時は全体会議で、希望や意向を実践に移せるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント作成時に一人ひとりの生活歴や生活環境、馴染みの関係やこれまでの介護サービス利用の経過等について家族やケアマネジャー等より情報の提供を受け、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活歴をもとに、その方の有する能力、心身状態、入居後の一日の過ごし方の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時などに家族と話す機会を設け、介護計画への意見や意向を伺い、毎月の会議においては利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について話しあい、介護計画に反映させている。	入居者や家族の意向が盛り込まれた、本人本位の介護計画が立てられている。毎月全員のモニタリングをし、入居者の現状や気持ちに即した内容となっており、毎日の実行記録や気づきも記入されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づき等を個別ケース記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対して様々な情報交換や関わり方の検討を行い、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が持っている心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しんでいただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の納得を得たかかりつけ医と事業所との関係を築くと共に看護師の雇用にて受診の付添、Drへの説明等、適切な医療を受けられるよう努めている。	地域の方が入居されており、併設病院にかかりつけの入居者が多い。法人の病院を希望し変更される場合もあり、家族からの「併設だから安心」という声も多い。受診は面会を兼ねて家族の協力を得ているが無理な時は職員が支援し、説明と報告は行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常の関わりの中で捉えた情報や気づきを職場の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、指示を受けて個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、安心して治療できるよう、また出来るだけ早期に退院できるよう、ソーシャルワーカーとの情報交換や相談に努めており、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について本人・家族等と話し合いを行うよう、また重度化した場合における対応にかかる指針を掲げて事業所で出来ることを十分に説明しながら方針を共有し、家族の希望に添えるよう取り組んでいる。	重度化した場合の対応を指針として揚げ、入居時に説明し、ホームでできることを理解していただいている。法人の協力体制があり、家族と段階的に話し合うことで、本人や家族が安心されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同一敷地内に病院があり、24時間の連絡に対する体制が取れており、それをマニュアル化して掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定を含む年に2回の消防避難訓練には隣接する他事業所のほかに地域の方々の参加と協力を得て行っている。	定期的に避難誘導訓練を開催している。夜間の場合も法人内事業所の協力は心強い。又消防署や地元消防団の協力も得て実施しており、終了後の講評を受けている。地域の方や運営推進会議の委員との協力体制がある。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりの中で一人ひとりの人格を尊重し、言葉使いや態度に気をつけ、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に配慮している。	県の認知症介護実践者研修へ計画的に参加し、人格や尊厳を守るケアについて意識を高め、職員で共有している。日頃のケアで職員に指導することもある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で個別の対応を重視し、本人が思いや希望を表したり、伝えたり、自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れは決まっているが、職員の都合や決まりを優先するのではなく、利用者一人ひとりのペースに合わせ、その日をどのように過ごしたいか希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際は衣類の選択が出来るような配慮や、季節に合ったその人らしいおしゃれや身だしなみが出来るような支援を行っている。また、理美容に関しては移動美容室や理容ボランティアの利用にて対応できている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、献立は利用者の嗜好や季節ごとの旬の食材を取り入れ、利用者と職員と一緒に炊事全般を行っている。また、定期的な外食も実施している。	食事の下ごしらえや配膳等入居者ができることを職員と一緒に手伝ってもらっている。入居者が「何かすることはありますか」とイキイキとされる様子が窺える。ホームで入居者と収穫した野菜が食卓に出ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態に応じた支援を行っている。又、お茶はいつでも飲む事が出来るよう準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの促し、誘導、見守りや一部介助等を含め、一人ひとりの状態に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	全ての利用者はトイレでの排泄で、排泄感覚が十分でなく失禁が見られる方には随時、個別の対応を行って排泄の失敗を減らし、排泄の自立と現状維持に向けた支援を行っている。	排泄の失敗はあるが、プライバシーに配慮し、時間にこだわらない個別の対応で、トイレで排泄ができるよう誘導、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に関しては体操や余暇活動で身体を動かす機会を増やし、食事では野菜を多く摂取するよう心がけている。又、水分補給をこまめに行い、入浴後にヨーグルトを提供するなど、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は隔日を基本としているが一人ひとりの希望や状況に応じた支援を行っている。入浴されない日は清拭と衣類交換で対応している。	入浴は1日おきを基本としているが、希望があれば、毎日でも入っていただくことができる。入浴されない日は清拭をし、保清に努めている。一人ひとりの希望を聞くなど楽しんで頂ける工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に応じて休息の時間を設けたり、安心して気持ちよく眠っていただけるような支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援においてはDrや看護師の指導のもと、一人ひとりが使用している薬の内容等について理解しており服薬の支援と症状の変化の確認、情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びを感じながら、生き甲斐のある日々を過ごして頂けるよう、一人ひとりの生活歴や能力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望にそって、散歩やドライブ、外食などで外に出かける機会を出来るだけ多く設けるよう努めている。また家族との外出への協力、支援を行っている。	季節のドライブや買い物、外食やおやつ等希望に添って出かける機会を作っている。個別の希望には家族の協力を得ることもある。近隣に神社があり、散歩コースとなっており、日常的に出かけ、季節を感じてもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持、支援は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りに関しては利用者や家族からの希望があれば随時、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間が利用者にとって快適な居場所になるよう配慮し、季節感や生活感を感じて頂けるような工夫をしている。	共用空間のソファや家具等は家庭的で明るく落ち着きがある。季節の花や、はり絵が季節感を感じさせる。各居室の窓が掃き出しになっており開放的で、換気がよくなされ不快な臭いもない。水分を自由に摂っていただけるようお茶の準備をされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人または気が合う利用者同士で過ごせる居場所として一人用の椅子や数人掛けのソファ、他の方達と少し離れて過ごせる場所等、思い思いに過ごせるような居場所の工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には本人が安心できる居室作りについて利用者と家族に伝え、使い慣れた家具や好みの飾り等を置いてもらう等、心地よく過ごせるように工夫している。御位牌や仏壇などを持ってこられる方もおられる。	各居室にトイレと洗面所を設置し、和室と洋室が準備され広く落ち着ける雰囲気である。使い慣れた家具の仏壇、筆筒、テレビ等持ち込まれ、家族の写真や、本人の作品も個性的に飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの能力を把握し、それを活かしながら、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるような環境作りに配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		#####	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない